

信越ポリマー株式会社 2026年 3月期 決算説明会

社長挨拶要旨

社長の出戸でございます。

本日はご多忙中のところ、弊社の決算説明会にご出席賜りまして、誠に有難うございます。

皆様には日頃大変お世話になっており、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

当期は日本を含め世界的に半導体の需要が旺盛だったことから、ウエハー容器の販売は堅調でした。また、ワイパーや延焼防止クッションなど車載シリコン成形品は新規需要を取り込み大幅に伸長しました。車載入力デバイスはハイブリッド車販売が堅調だったことから回復基調で推移しました。加えて、ラッピングフィルムは透明ラップから独自製品であるカラーラップへの転換が進み、機能性コンパウンドも市中在庫の消化を受け、F A 機器向けなど電線被覆用の需要が上向きました。

この結果、当期における業績は、

- ・売上高 1,151 億 16 百万円 (前年同期比 45 億 34 百万円の増加)
- ・営業利益 140 億 40 百万円 (前年同期比 7 億 69 百万円の増加)
- ・経常利益 140 億 08 百万円 (前年同期比 7 億 90 百万円の増加)
- ・親会社株主に帰属する純利益 98 億 99 百万円 (前年同期比 4 億 69 百万円の増加)
期末配当 1 株当たり 32 円とし、年間 62 円とさせていただきます。

今後につきましては、差し迫った課題として、中東の情勢不安に伴うリスクに対しては、お客様、取引先様等と密接にコミュニケーションを図り情報収集に努め、適宜対処してまいります。そのうえで、昨年更新した中期経営計画に沿って事業を進めてまいります。基盤領域における販売力の強化と生産性の向上、成長領域における新規需要の取り込み、海外売上高比率のさらなる向上といった戦略は更新前から変わりません。

半導体市場はさらに拡大する見込みであり、この機会を逃すことなく新たな需要を取り込んでまいります。E V は各国政策の転換から足元で普及に減速感が見られますが、緩やかに浸透が進んでおり、将来的には主要な交通インフラのひとつとなると見えています。そのため、次世代自動車関連製品は開発の手を緩めず、積極的な投資も進めてまいります。

当社は引き続き差別化した製品の開発に取り組み、各製品のニッチ市場におけるトップシェアを目指します。なお、今期の業績予想につきましては、為替や中東情勢に伴うエネルギー、原材料価格の動向など先行き不透明な状況が続くものと思われまます。そのため、現時点で合理的な算定が困難であることから未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

私からはここまでといたしまして、このあと、経理部長の小和田より詳細な説明をさせていただき、その後、皆さまからのご質問にお答えさせていただきたいと存じます。

以上、ご報告とご挨拶とさせていただきます。

信越ポリマー株式会社 2026年3月期 決算説明会

質疑応答要旨

日時	2026年5月15日（金）14:00～14:50		
開催形式	ウェビナー（ライブ配信）		
登壇者	・取締役会長	会長執行役員	小野 義昭
	・代表取締役社長	社長執行役員	出戸 利明
	・取締役	常務執行役員	菅野 悟
	・常務執行役員	営業本部長	小林 直樹
	・執行役員	経営企画部 経理部 部長	小和田 収
	・執行役員	営業第三部 部長	山本 和彦

<全 社>

- Q1.** 今期の業績予想は中東情勢により見送りとされているが、設備投資額の計画を伺いたい。
- A1.** 引き続き半導体関連容器の需要は旺盛であると見込んでいる。半導体関連容器を中心に前期以上の設備投資を進める予定であり、金額も前期を上回る見込み。建屋はすでに増設を完了したが、今後は需要の拡大に対し、先行して設備の増強を行っていく。
- Q2.** 中東情勢によりシリコンゴム材料の調達に影響は出ているのかを教えてください。
- A2.** 現時点では大きな支障は出ていない。メディカル向け・車載向けともに足元では調達の目処は立っており、少なくとも今期上期までは問題ないと見込んでいる。ただ、下期からは先行きが不透明である。
- Q3.** 先日、信越化学で AI に関する説明会があったが、AI 関連と御社事業の成長性（事業機会）とのかかわりをどう見ているのか。
- A3.** 当社の半導体関連容器は必ずしも AI 向けというわけではないが、AI を中心とするデバイスメーカーの設備投資が旺盛になってきており、工程内容器である FOUP の需要も増加している。また半導体製造の後工程にかかわる工程内容器や、データセンター向け大型 MLCC 用キャリアテープの需要が伸びると見ている。
- Q4.** 親会社の信越化学との親子上場に関する考え方や上場する意義について教えてください。
- A4.** 親子上場は親会社の資本政策に関わることであり、当社としてコメントを差し控える。当社としては、上場していることで一定の独立性を担保できていることから半導体関連容器を親会社だけではなくすべてのウエハーメーカーに販売できていると考えている。独立性を維持していることが顧客からの信頼確保につながっていると考えており、上場維持を基本方針としている。
- Q5.** 先日、信越化学も原材料価格の改定を発表したが、御社は原材料高騰による製品値上げをどのように行っているのか。
- A5.** シリコンや塩ビなど原材料の値上げは自社だけで吸収することが難しいため、お客様に丁寧に説明しご理解いただきながら価格是正を進めている。すでに塩ビ製品ではラップなど汎用品について一定程度価格是正が進展して

いる。今後は半導体関連容器などについても、価格是正を進めていく。

<精密成形品事業>

Q1. 精密成形品事業の中のシリコンゴム成形品の需要動向と今後の見通しについて教えてほしい。

A1. 主に医療向けが成長しており、今後も同分野を中心に拡大を目指す。加えて、電子デバイス事業にも車載用途でシリコンゴムの成形品があり、合わせて伸ばしていく。

<住環境・生活資材事業>

Q1. 食品用ラップなど消費者に近いビジネスもある中で、中東情勢を踏まえた今期のリスクシナリオをどこまで想定しているのか。

A1. 原材料価格が大幅に上がっており、ラップなど消費者に近い製品については速やかに価格是正を進めている。ただし、今回の原材料値上げは数十%というかなり大きなものであり、今後、製品単価がかなり上がることから、7月以降は価格高騰による需要停滞が起こり得ると見ている。足元では仮需が増えている状況。

Q2. 機能性コンパウンドの足元の状況と今後の見通しはどうか。

A2. 機能性コンパウンドは摺動性が優れている特徴からFA・ロボット関連に使用されているが、足元で需要が回復しており、半導体装置関連も含め今後も好調に推移していくと見ている。

Q3. タイのハイミックス社の稼働状況と、今後投資計画があるのかを教えてください。

A3. 東南アジア向けの機能性コンパウンドはタイのハイミックス社から供給しているが、足元で稼働が上がっている。今後は需要動向を見ながら必要に応じて投資を検討する。

以上